

宿直の施設担当者、適切な行動をとる

神戸国際展示場（1号館・2号館）

1 設備の被害状況

スプリンクラー設備のうち、2号館1階北側風除室のスプリンクラー配管（25ミリ）が地震により破損し、破損部分より消火用水が放出したために、配管2次側の圧力低下によりスプリンクラーポンプが起動した。約10分～15分間放出したために約48トンの消火用水のほとんどを使用した。配管より放出した消火用水は大部分が屋外に流出したため、館内の水損は、ほとんど無かった。

原因として、当該風除室部分は、建築物の基礎工事がなく、地震の発生と、それにとまなう液状化によりその部分のみが地盤沈下し、高低差が生じたために配管に損傷が起こったと考えられる。また、展示場部分の先付けスプリンクラーヘッドが地震の振動により、天井板内に陥没した。

2 関係者の初期対応

当日は1号館・2号館に施設担当者が各1名宿直していた。スプリンクラー設備の起動のサイレンと表示により、場所を確認してから現場に急行、約10分後に当該部分のアラーム弁を閉止した後、神戸国際交流会館の設備担当者に連絡、約30分後にポンプを停止させた。当座の応急処置として破損部分に至る配管のバルブを閉止した。スプリンクラー設備は5月17日に完全復旧した。

3 教訓

スプリンクラー配管等の重要な配管は、建築物のく体に接続させた方が、地震時の揺れに対して効果的である。